

平成24年度

国立看護大学校研究課程部看護学研究科

(修士課程相当)

学 生 募 集 要 項

[3次募集]

国 立 看 護 大 学 校

# 国立看護大学校研究課程部看護学研究科（修士課程相当）学生募集要項 〔3次募集〕

## 1 募集人員

政策医療看護学専攻

専門分野	入学予定人員
国際看護・看護教育学	看護教育学を除く各分野若干名  希望する専門分野の教員に出願前に連絡をしてください。 ※出願資格審査が必要な場合、出願資格審査書類提出前に連絡してください。
看護情報・管理学	
成人看護学	
精神看護学	
成育看護学	
長寿看護学	

## 2 出願資格

### (1) 一般選抜

- ① 本大学校看護学部を卒業した者又は平成24年3月卒業見込みの者
- ② 看護学を専攻して大学を卒業した者又は平成24年3月卒業見込みの者
- ③ 大学を卒業又は平成24年3月卒業見込みの前号以外の者で保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号。以下「保助看法」という。）第21条に規定する受験資格に該当する者
- ④ 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成24年3月31日までに授与される見込みの者で保助看法第21条に規定する受験資格に該当する者
- ⑤ 保助看法第21条に規定する受験資格に該当する者（22歳に達した者に限る。）で研究業績等目録及び研究計画書等により、①～④に掲げる者と同等の学力があると本学研究課程部において認めた者
- ⑥ 外国において学校教育における16年の課程を修了及び平成24年3月修了見込み、又はこれに準ずる者と文部科学大臣が指定した者で保助看法第21条に規定する受験資格に該当する者
- ⑦ ①～⑥に掲げる者のほか、研究業績等目録及び研究計画書等により、本学研究課程部において、前各号に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者（22歳に達した者に限る。）

### (2) 社会人選抜

保健師、助産師又は看護師のいずれかの免許を有し、平成24年3月31日時点で5年以上の看護業務又は看護教育業務の経験を有する者で（1）①～⑦に該当する者

## 3 出願資格審査

2の出願資格（1）⑤及び⑦並びに（2）により出願しようとする者については、事前に個別の出願資格審査を行います。なお、学士の学位を有する者（平成24年3月取得見込みの者を含む。）及び過去に本大学校の出願資格審査認定を受けた者については出願資格審査は必要としません。

### (1) 審査書類

①	出願資格審査願	本大学校指定の用紙に、必要事項を記入してください。
②	出願資格認定審査調書	本大学校指定の用紙に、必要事項を記入してください。 なお、第2志望欄には希望がある場合のみ記入してください。
③	最終学歴卒業（見込み）証明書	最終出身学校が発行した証明書。※保健師・助産師養成機関、教員養成機関、認定看護師養成機関等を卒業・修了（見込み）されている場合は、その養成機関等の証明書を提出してください。上記以外の者は、看護師養成機関の卒業証明書を提出してください。
④	免許証の写し	保健師、助産師又は看護師のいずれかの免許証の写し。
⑤	在職証明書	本大学校指定の用紙に、必要事項を在職した機関にて記入し、かつ、機関の長に証明を受けてください。※5年以上の実務経験を有する者は、5年間の実務経験を証明できれば結構です。

⑥	研究業績等目録	本大学指定の用紙に、必要事項を記入してください。 ア 論文 著者名、題名、掲載誌、巻、頁、年を明記する イ 著書 著者名、書名、題名、出版社、発行年を明記する ウ 学会等発表 著者名、演題名、学会名、場所、年を明記する エ 社会活動の概要 専門職としての社会活動について明記する
⑦	研究計画書	本大学指定の用紙に、必要事項を記入してください。
⑧	審査結果通知用返信封筒	定形封筒（長形3号）に郵便番号、住所、氏名を明記し、380円切手を貼ったもの。

(2) 出願資格審査書類提出期間

平成24年2月14日（火）～2月17日（金）必着

(3) 出願資格審査結果の通知期日

平成24年2月22日（水）

(4) 出願資格審査書類の提出先

国立看護大学校事務部教務課（研究課程部入試担当）

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

※封書の書面に「出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

#### 4 出願手続

(1) 出願期間及び方法

平成24年2月23日（木）～2月29日（水）（2月29日消印有効）

出願は、郵送のみ（書留速達郵便）とし、出願期間内に本大学校事務部教務課あて送付してください。

(2) 出願書類

出願者は、次に掲げる①～⑫の書類を出願期間内に提出してください。既に平成24年度募集の出願資格審査で出願書類⑥、⑦を提出されている場合は、再提出の必要はありません。

①	出願票	本大学指定の用紙に、必要事項を記入してください。 なお、第2志望欄には希望がある場合のみ記入してください。
②	受験票	
③	写真票	
④	成績証明書	出身大学（出願資格審査の出願者は看護師養成機関）の成績証明書を提出してください。ただし、厳封されたものとします。 学位授与機構から学士の学位を授与された場合は、出身学校も含めたそれ以降の全成績（単位修得証明書）を提出してください。
⑤	大学卒業（見込み）証明書 （又は出願資格審査結果通知書）	出身大学の学長等が発行したものを提出してください。 学位授与機構から学士の学位を授与された者は、学士の学位証明書を提出してください。 なお、過去に本大学校の出願資格審査の認定を受けた者は出願資格審査結果通知書の写しを提出してください。
⑥	免許証の写し	保健師、助産師又は看護師のいずれかの免許証の写し。
⑦	在職証明書 （社会人選抜の出願者のみ）	本大学指定の用紙に、在職した機関にて必要事項を記入し、かつ、機関の長に証明を受けてください。 ※5年以上の実務経験を有する者は、5年間の実務経験を証明できれば結構です。
⑧	研究計画書	本大学指定の用紙に、必要事項を記入してください。 なお、出願資格審査を出願し、研究計画書を提出されている場合は、その提出は必要ありませんが、修正して再提出してもかまいません。
⑨	検定料 30,000円	本大学指定の振込依頼書を使用して納付してください。銀行窓口での振込（電信扱い）に限ります。ただし、ゆうちょ銀行・郵便局は利用できません。また、ATM（現金自動預払機）は利用できません。納付後、振込受付証明書（お客さま用）を検定料納入票に添付し同封してください。取扱金融機関の出納印をもって本大学校の領収とします。領収書はあら

		ためて発行しませんので振込金(兼手数料)受取書は大切に保管してください。納入された検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
⑩	外国人登録済証明書(日本国籍を有しない者のみ)	日本国籍を有しない者は、市区町村長が交付する「外国人登録済証明書」を提出してください。
⑪	返信用封筒	受験票の送付に使用するので、定形封筒(長形3号)に返信先の郵便番号、住所、氏名を明記し、660円分の切手を貼付してください。
⑫	あて名票	本大学校指定の用紙に、合格通知書等送付先の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

(3) 出願上の注意

- ① 出願前に希望する専門分野の教員と事前に面談してください。
- ② 提出書類に不備がある場合は受理しません。
- ③ 受理した出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④ 出願書類を受理した場合は、受験番号を付した受験票及び案内図を志願者に受験票等返信用封筒により返送します。
- ⑤ 平成24年3月5日(月)までに受験票が到着しない場合は、直ちに本大学校事務部教務課(研究課程部入試担当)までお問い合わせください。

## 5 選抜方法

- ア 第1志望の分野に関して次の科目の試験を行います。  
イ 第1志望以外の分野において選抜することがあります。

(1) 一般選抜

- ① 外国語(英語)
- ② 看護に関する専門科目(第1志望分野に関連する問題)
- ③ 面接(研究計画を含む。)

(2) 社会人選抜

- ① 外国語(英語)
- ② 小論文(第1志望分野に関連するテーマを含む。)
- ③ 面接(研究計画を含む。)

## 6 試験日時及び試験会場

(1) 一般選抜

- ① 試験期日  
平成24年3月6日(火)
- ② 試験時間
  - a 外国語 9時00分～10時00分
  - b 専門科目 10時20分～11時50分
  - c 面接 13時30分～

a 外国語	英和辞書を貸与する。	
b 専門科目	国際看護・看護教育学	各分野からそれぞれ出題します。 第1志望分野の問題を2題解答してください。
	看護情報・管理学	
	成人看護学	
	精神看護学	
	成育看護学	
	長寿看護学	
c 面接	研究計画を含む。	

③ 試験会場

国立看護大学校(東京都清瀬市梅園1-2-1)

(2) 社会人選抜

①試験期日

平成24年3月6日(火)

②試験時間

a 外国語 9時00分～10時00分

b 小論文 10時20分～11時50分

c 面接 13時30分～

a 外国語	英和辞書を貸与する。
b 小論文	第1志望分野に関連するテーマを含む2題を解答してください。
c 面接	研究計画を含む。

③試験会場

国立看護大学校(東京都清瀬市梅園1-2-1)

## 7 合格発表

(1) 一般選抜

平成24年3月8日(木) 午前10時

(2) 社会人選抜

平成24年3月8日(木) 午前10時

(1)、(2)ともに、国立看護大学校本館棟前(東京都清瀬市梅園1-2-1)に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人あて郵送により試験結果を通知します。

なお、インターネットのホームページ上にも同時刻に合格者の受験番号を掲示します。

## 8 入学手続

(1) 期間

平成24年3月8日(木)～3月16日(金)

(2) 場所

国立看護大学校事務部教務課(研究課程部入試担当)

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

(3) 必要書類

①受験票

②出願時において、平成24年3月卒業見込みにより受験した者は平成24年3月30日(金)までに卒業証明書を提出してください。

(4) 納付金

入学金 282,000円

本大学校指定の振込依頼書(合格者宛送付)を使用して納付してください。

(5) 留意事項

①本大学校が指定した期間中に入学手続を行わなかった者は、入学辞退者として取り扱います。ただし、やむを得ない事情等により、指定された日に手続ができない場合で本大学校の許可を得たときはこの限りではありません。

②入学手続終了後、本大学校又は大学を卒業できない等の事由が生じた場合は、入学許可を取り消すことがあります。

③納入された入学金は、返還しません。

④提出書類、その他詳細については、合格通知とともに合格者本人あてに郵送します。

## 9 長期履修制度

本研究科では、現役社会人を対象に、2年を超えて学習ができる長期履修制度があります。これは、入学時点において、通常2年間の修業年限を3年間または4年間に変更できる制度です。詳細は事務部教務課(研究課程部入試担当)までお問い合わせください。

## 10 参考事項

### (1) 授業料

年額 535,800円(予定)

授業料については、入学後に前期・後期に分けて徴収します。

また、授業料は在学中に改定される場合があります。

## 11 個人別成績の開示

本大学校では、研究課程部看護学研究科入学者選抜試験に係る個人別成績に関して、受験者本人から開示の請求があった場合に限り、次により一般選抜受験者は外国語と専門科目の得点及び面接の評価、社会人選抜受験者は外国語と小論文の得点及び面接の評価について開示します。

(1) 請求者 受験者本人(但し、入学者は除く。)に限ります。

(2) 請求期間 平成24年4月9日(月)から5月31日(木)(土日祝日は除く)

(3) 請求方法 ①窓口

次の(4)請求窓口にて国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜に係る個人別成績開示請求書、受験票を提出してください。

②郵送

封書の書面に「個人別成績開示請求」と朱書し、国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜に係る個人別成績開示請求書、受験票、宛先を明記した返信用封筒(定形封筒(長形3号)・380円分の切手貼付)を下記の問い合わせ先へ郵送してください。(5月31日消印有効)

(4) 請求窓口 国立看護大学校事務部教務課

(5) 開示方法 国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜に係る個人別成績開示通知書を、窓口での交付又は郵送により行います。

**注)「国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜に係る個人別成績開示請求書」は、本学ホームページ(<http://www.ncn.ac.jp>)からダウンロードしてください。**

(Adobe Reader7.0が必要です)

## 12 問い合わせ先

国立看護大学校事務部教務課(研究課程部入試担当)

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

電話 042-495-2211(代表) 【内線】5111・5112・5114

E-mail [msn-nyushi@ncn.ac.jp](mailto:msn-nyushi@ncn.ac.jp)

# 国立看護大学校研究課程部看護学研究科の概要

## 1 教育方針等

### (1) 教育理念

研究課程部における教育の理念は、国立看護大学校の教育理念である「ヒューマンケアの精神」のもと、人間の健康を多面的に捉え、科学的・論理的思考力を涵養し、政策医療看護学の基盤となるエビデンスを研究を通じて探求し、効果的・効率的看護のあり方を見出す能力を培い、人々の健康と生活の質向上に貢献することである。

### (2) 教育目的

健康に関わる要因を多面的に捉え、分析・考察できる能力を修得させ、効果的・効率的な看護方法を開発するとともに、科学的根拠を見出し、活用する能力を育成する。こうした能力を通じて、政策医療の場における看護の質を高め、効果的・効率的看護の展開を指導・教育する人材を育成する。

具体的には、次のような人材を育成する。

- ①国立高度専門医療研究センター等の政策医療の中核を担う医療機関において、政策医療臨床看護及びその研究の指導的役割を担う看護職
- ②国立看護大学校など中核的看護師等養成施設において政策医療看護学の教育・研究を行う教員
- ③国際医療協力における看護教育・研究の指導者

### (3) 教育目標

#### ①政策医療臨床看護学の推進

政策医療に関わる看護のあり方を理解させるとともに、看護の専門性・独自性・自律性の自覚、科学的・論理的思考力と研究能力を修得し、学生の臨床看護能力を科学的根拠に基づく効果的・効率的看護が提供できる水準に高める。

#### ②国際医療協力における看護学の指導能力の育成

発展途上国への看護技術移転や災害時の緊急医療援助などの国際協力における指導的能力を持つ人材を育成するため、国際的学術交流、国際的共同研究をはじめ、海外の看護系大学と大学間交流を積極的に行う。

臨床での看護技術指導に加えて、看護教育プログラムの開発や看護制度の研究まで担える人材の養成を目指す。

#### ③政策医療分野における看護指導者の育成

国立高度専門医療研究センターなどにおける看護師長など管理的業務を行うには臨床看護分野の看護能力のみならず、組織全体を視野に置いた指導・助言ができる看護管理・看護情報分野の教育・研究能力が求められており、これらの能力についても育成を目指す。

すなわち、本学研究課程部では、以下の課題に対応できる能力の育成を目指す。

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ア 文献や情報の実践への活用     | オ 看護教育・指導方策の探求     |
| イ 看護ケアを支えるエビデンスの探求 | カ 専門職としての役割・活動を探求  |
| ウ 適切なケア・システムの探求    | キ 保健医療看護の国際的な動向の分析 |
| エ 効率的な看護管理方法の探求    | ク 保健医療行政・システムの分析   |

## 2 教育・研究内容

### (1) 授業科目と履修方法

授業科目及び内容は、別表に示すように、政策医療看護学としての特色を踏まえて共通科目と専門科目で構成する。

#### ①共通科目

政策医療看護学特論など別表に示した7科目であり、1科目2単位とする。

共通科目の配当年次はいずれも1年次であり、次表に示すように、7科目中5科目以上選択し、10単位以上履修する。なお、共通科目7科目中、政策医療看護学特論と看護研究法は必修とする。

#### ②専門科目

別表に示すように、専門科目は国際看護・看護教育学など6分野からなり、各分野は、それぞれ特論Ⅰと特論Ⅱ及び演習Ⅰと演習Ⅱ、特別研究の授業科目で構成される。単位数は、特論Ⅰと特論Ⅱ、演習Ⅰと演習Ⅱが各2単位、特別研究6単位とする。

学生は、各自選択した主専門分野から、次表に示すように、特論、演習、特別研究合わせて14単位履修する。さらに他専門分野の特論Ⅰを3科目以上選択し、履修する。

#### ③授業時間

月曜日から金曜日の午前9時から午後5時50分。

なお、必要に応じて、時間外に授業を行うことがある。

### 【履修例】

	共 通 科 目	専 門 科 目
1 年	<b>【必修】</b> 政策医療看護学特論 看護研究法 <b>【選択必修：3科目以上選択】</b> 看護理論 政策医療看護倫理 ヘルスアセスメント コンサルテーション 保健経済論	<b>【必修】</b> 選択した専門分野の特論Ⅰ 選択した専門分野の特論Ⅱ 選択した専門分野の演習Ⅰ 選択した専門分野の演習Ⅱ <b>【選択必修】</b> 選択した専門分野以外の特論Ⅰを3科目以上
2 年		<b>【必修】</b> 選択した専門分野の特別研究

### (2) 修了要件

本課程の修了には、看護学研究科に2年以上在学して、授業科目を30単位以上修得し、修士論文に相当する研究論文が本研究科における審査に合格すること。

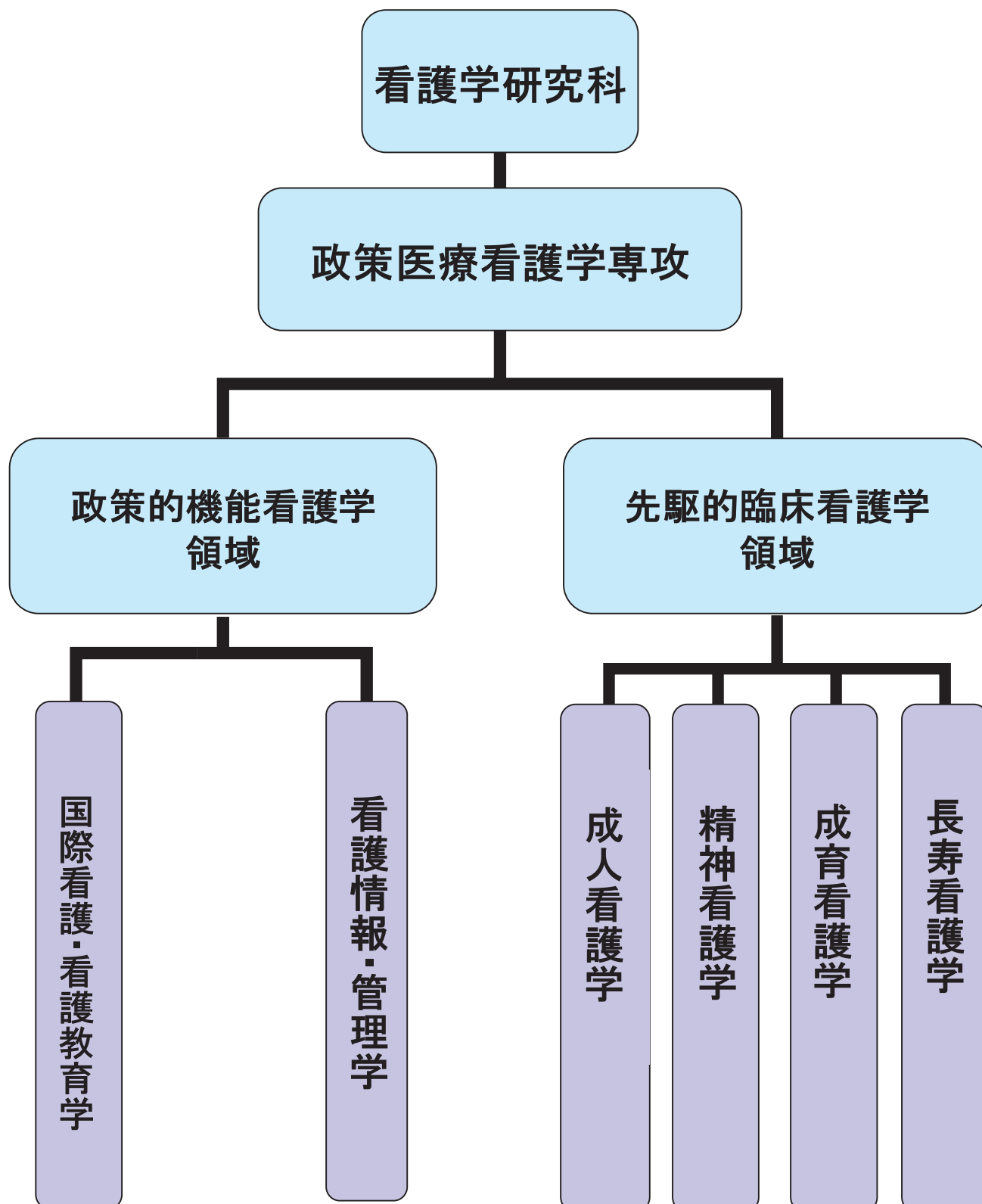
### (3) 学位「修士（看護学）」

独立行政法人大学評価・学位授与機構に申請し修士論文の審査及び試験に合格すると、「修士（看護学）」の学位が授与される。

ア 審査 1月～2月(予定)

イ 学位授与 3月(予定)

# 研究課程部看護学研究科の概要





専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
	共通	政策医療看護倫理	飯野 京子 田村 やよひ 佐々木 和子	<p>専門職として自律的に行動するための看護倫理について理解し、医療の場で生じる倫理的課題及び看護職に生じる倫理的葛藤、職種間で生じる倫理問題について、臓器移植、遺伝子治療、難治性がん治療、緩和ケアおよび高度生殖補助技術の提供等の具体的事例に基づいて論ずる。</p> <p>さらに、QOL、文化や生活様式、価値観などの相違も踏まえた視点からの倫理問題の解決と調整の手法を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政策医療看護の活動や研究に関わる倫理的課題について検討する。</li> <li>2. 看護実践の場（難治性がん治療、緩和ケアおよび高度生殖補助技術等の提供等）で生じる倫理問題を事例で検討する。</li> <li>3. 保健師助産師看護師法に基づく看護倫理の考え方について検討し、看護職員の倫理的問題の予防策について検討する。</li> </ol>
	科目	ヘルスアセスメント	飯野 京子 綿貫 成明 小山 友里江	<p>先駆的臨床看護実践に活用するためのヘルスアセスメントの知識と技術を理解し、健康障害を有する対象に応用可能なアセスメント法及び科学的かつ客観的な評価技術に関する理解を深める。</p> <p>特に、がん患者等の難治な疾患を有する対象、成長発達段階の特徴を踏まえた健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントの理論と技術について理解する。また、多様な症状に関するアセスメント及びケアについての理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先駆的臨床看護実践とヘルスアセスメント</li> <li>2. ヘルスアセスメントのためのコミュニケーションスキル（症状アセスメントのためのコミュニケーション、インフォームドコンセントとコミュニケーション等事例を通して演習）</li> <li>3. フィジカルアセスメント基本技術：視診、触診、打診、聴診の理論と演習</li> <li>4. 看護実践の基盤となるフィジカルアセスメント 呼吸器、乳房、腹部、心血管、目、耳、神経、筋骨格</li> <li>5. 症状を有する患者の病態の理解とアセスメント 呼吸困難、倦怠感、がん性疼痛</li> <li>6. 症状を有する患者の病態の理解とアセスメント 心不全、不穏・苦痛と鎮静等精神症状</li> <li>7. 高齢者のヘルスアセスメント</li> </ol>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
	共通科目	コンサルテーション	鉦鹿 健吉	<p>1. コンサルテーションとは何か 各種のコンサルテーションモデルの比較</p> <p>2. コンサルテーションの技法 ・積極的質問 ・明確化と確認 ・フィードバック ・提案 ・コーディネート ・エンパワーメント</p> <p>3. コンサルテーションのプロセス ・目標と計画 ・情報提供 ・ファシリテート ・効果判定</p> <p>4. コンサルテーションのロールプレイ</p>
		保健経済論	森山 幹夫	<p>1. 日本では医療に年間40兆円近くを費している。これは、国民総生産520兆円の8%近くにまでなるものである。また、医療で働く者は250万人で日本の勤労者6000万人の4%にまで達している。うち150万人は看護職員であり、看護の質が医療の質を決めるといっても過言ではない。</p> <p>2. このように日本の経済に大きな割合を占める医療について、経済的な面からも考察し、医療や保健の国民生活上の位置付けや将来の展望を考えるものである。</p> <p>3. 具体的には、保健や医療制度に関わる施設や専門職、財源などの社会経済資源を、福祉や環境、教育、住宅など関連分野を含めた広い視野から効率的に活用するための方策及び医療の評価方法について研究する。</p> <p>4. また、看護活動については、保健医療福祉の最大の職能集団として、その在り方を社会保障政策、医療政策、財政の観点から考察する。</p> <p>5. 具体的な日常の看護活動の中から政策立案能力、実現能力を養うための基礎的発想法を習得する。</p>
	看護研究法	樋口まち子 竹内 文生 小澤 三枝子 松岡 里枝子	<p>看護における研究の意義と特徴を理解し、看護活動における問題意識から研究目的に発展させる過程及び目的達成のための手段である方法論を検討する。具体的には、研究における理論・概念枠組みの重要性と研究プロセス、研究デザイン、研究倫理、さらに、英文論文表現法及び効果的プレゼンテーションを学習する。</p> <p>(1)看護研究の役割・意義</p> <p>(2)研究における理論、問題、目的、概念枠組み</p> <p>(3)文献検索・文献検討</p> <p>(4)看護研究における倫理的配慮</p> <p>(5)看護研究の基本となる研究の枠組みの提示及び量的な研究方法</p> <p>(6)看護研究における帰納的方法による研究の動向、意義及び研究方法論</p>	

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
				(7)看護研究論文作成に必要な英語表現法及びAPAに基づいた英文論文の作成法
政策的 機能的 看護学 領域	国際看護	国際看護・看護教育学特論Ⅰ	樋口 まち子 亀岡 智美	<p>国内外に存在する、一国では解決できない保健医療及び看護の問題を国際間で解決するための看護理論と方法論を考察する。</p> <p>さらに、看護教育・人材育成の基盤となる理論の理解、看護教育制度及び看護政策・制度など看護人材育成に関する基礎的理解を深めるとともに、基礎教育・卒後教育・継続教育のあり方について考察を進める。</p> <p>また、発展途上国など異文化の中で看護教育・人材育成を行うための課題、実践方法について教授する。これらを踏まえ、政策医療看護教育のあり方、国内外における看護職の育成の方法について考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念、対象および方法について検討するとともに、WHOやICN等の国際機関の役割・課題、わが国の役割・課題等について検討する。</li> <li>2. 国際保健協力の意義と役割及び国際保健協力における発展途上国のニーズと協力のあり方、方法について医療人類学的視点を含めて検討する。</li> <li>3. 看護教育学の理解を深めるため、看護教育制度及び看護教育に関する政策の変遷と課題等について検討する。</li> </ol>
		国際看護・看護教育学特論Ⅱ 〈国際看護学〉	樋口 まち子	<p>国際看護の視点で保健医療協力を推進するための方略を講義、文献検討、ディスカッションを通して習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルヘルスや看護上の問題点を分析する。</li> <li>2. 異文化看護論及び医療人類学的視点から保健医療協力を推進するための方策について探求する。</li> <li>3. 国際社会へ寄与できる研究成果を提供できるように学習する。</li> </ol>
		国際看護・看護教育学特論Ⅱ 〈看護教育学〉	亀岡 智美	<p>国際看護・看護教育学特論Ⅰの理解を前提とし、看護教育学の知識体系とその構築方法について、講義、文献講読を通して学習する。また、ディスカッション、課題演習を通して、それらの看護基礎教育・看護継続教育への適用の実際について探求する。</p>
		国際看護・看護教育学演習Ⅰ 〈国際看護学〉	樋口 まち子	<p>国際社会における健康格差や看護ニーズ、国際看護実践に関する国内外の論文を講読批評する。また、国際看護学に関する重要な研究課題及び研究を発展させるための方法と課題を探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各国の健康問題をプライマリ・ヘルスケア理論や人類学的視点で分析した研究論文を考察する。</li> </ol>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
政策的 機能的 看護学 領域	国際看護			2. 発展途上国における保健医療システム、異文化における生活習慣・健康価値観等に関する研究資料の収集方法を学び、資料の読解を行う。
		国際看護・看護教育学演習Ⅰ 〈看護教育学〉	亀岡 智美	国際看護・看護教育学特論Ⅰの理解を前提として、看護基礎教育、継続教育、看護職者の発達に関する海外の研究論文を講読、批評する。また、看護教育学に関する重要な研究課題、及び、研究を発展させるための方法と課題を探求する。 1. 学生個々の研究興味に基づき、看護基礎教育、看護継続教育、看護職者の発達に関する海外の研究論文を選定し、講読、批評する。 2. 1. を通して看護教育学に関する重要な研究課題、及び、研究を発展させるための方法と課題を探求するとともに、特別研究論文のテーマの焦点化や研究方法の決定に向けての示唆を得る。
		国際看護・看護教育学演習Ⅱ 〈国際看護学〉	樋口 まち子	国際看護学特論Ⅱの理解を前提として、発展途上国における保健指標向上及び人材育成の計画・実施に関する手法の修得に向け、国内外の研究論文を分析するとともに、研究成果の適用について演習する。 1. 研究論文の検討能力を高めるため、国際看護学に関する論文のクリティークを行う。 2. 発展途上国におけるQOL向上のための現状分析・計画・実践・評価に関する研究論文の考察とその成果の実践への適応について検討する。
		国際看護・看護教育学演習Ⅱ 〈看護教育学〉	亀岡 智美	国際看護・看護教育学特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰの理解を前提として、看護基礎教育、継続教育、看護職者の発達に関する海外の研究論文を講読、批評する。また、看護教育学に関する重要な研究課題、及び、研究を発展させるための方法と課題に対する理解を深める。 1) 学生個々の研究興味に基づき、看護基礎教育、看護継続教育、看護職者の発達に関する海外の研究論文を選定し、講読、批評する。 2) 1) を通して看護教育学に関する重要な研究課題、及び、研究を発展させるための方法と課題に対する理解を深めるとともに、特別研究論文のテーマの焦点化や研究方法の決定に向けての示唆を得る。
		国際看護・看護教育学特別研究	樋口 まち子 亀岡 智美	国際看護学もしくは看護教育学の課題に関する研究について、研究計画の立案、データ収集、分析を実施し、政策医療看護の発展に貢献する論文を作成するとともに、研究成果を効果的にプレゼンテーションする方法を学ぶ。

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
政策的 機械能 看護学 領域	看護情報	看護情報・管理学特論Ⅰ	小澤 三枝子 竹内 文生	組織管理の基本概念を学習すると共に、看護業務の把握、管理のあり方、情報管理、人材の育成と活用、ケアニーズ、安全と効率などについて検討・考察する。 1. 組織運営に関する諸理論を学び、組織として活動するために必要な知識を習得する。 2. 看護の質の評価や質確保のための手法について、文献をもとに検討・考察する。 3. 情報システムの基本概念を学び、政策医療ネットワーク全体としての情報システムの構築や活用について検討・考察する。
		看護情報・管理学特論Ⅱ<管理>	小澤 三枝子 竹内 文生 柏木 公一	看護管理に必要な知識体系について講義や文献講読によって学習し、ディスカッションを通して政策医療の場への応用を検討する。 1. 看護管理概説 2. 組織論、経営管理論、変革理論 3. 組織文化と組織倫理 4. マネジメントとリーダーシップ 5. 動機づけ 6. ストレスマネジメント 7. 看護管理研究の活用
	管理 学 理 学	看護情報・管理学特論Ⅱ<感染>	西岡 みどり 森 那美子	感染管理に関する事項について、講義、文献検討、ディスカッション等を通して探究する。 1. 感染管理の基礎となる免疫、微生物、感染症に関する知識を習得する。 2. 地域および病院における感染症の発症要因および流行や看護に関する知識を習得する。 3. 母性・小児・成人・老人の感染症患者の治療および看護方法に関する知識を習得する。 4. 感染管理における看護の役割、医療の質の評価と効率性（経済評価）、看護ケアの質の評価と効率性、効果的看護ケアと感染防止の関係、政策医療における感染管理などに関する知識を習得する。 5. 医療関連感染サーベイランスの実践に必要な知識を習得する。 6. 感染管理における看護師の役割について検討・考察する。
		看護情報・管理学演習Ⅰ<管理>	小澤 三枝子 竹内 文生 柏木 公一	看護情報・管理学特論Ⅰ、特論Ⅱの理解を前提として、効果的・効率的なケア供給システムのあり方について、文献資料（英文）の解読によって探究する。 1. 病院管理に必要な人材管理、業務管理、情報管理、安全管理などについて文献をもとに分析・検討し、政策医療における効果的・効率的なケア・デリバリ

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
政策的 機械 能 看 管 学 領 域	看 護 情 報 ・ 管 理 学			<p>一のあり方などについて探究する。</p> <p>2. 情報システムの構築や活用について探究する。</p>
		看護情報・管理学 演習Ⅰ 〈感染〉	西岡 みどり 森 那美子	<p>施設や地域における個人や集団の感染予防と発生時の適切な対策、および感染症の患者に対する高度な看護に関する事項について、講義、文献検討、ディスカッション等を通して探求する。</p> <p>1. 施設や地域における個人や集団の感染予防と発生時の適切な対策について探求する。</p> <p>(1) 感染危機管理の考え方と手法</p> <p>(2) アウトブレイクの特定・制圧の手法</p> <p>2. 感染症の患者に対する高度な看護実践について探求する。</p> <p>(1) 母性・小児・成人・老人など多様な感染症患者の治療と看護</p> <p>(2) 易感染患者の看護</p> <p>3. 感染領域に特有な倫理的問題とその対応方法について探求する。</p> <p>4. 感染領域における効果的なコンサルテーションについて探求する。</p> <p>5. 感染領域における効率的なコーディネーションについて探求する。</p>
		看護情報・管理学 演習Ⅱ 〈管理〉	小澤 三枝子 竹内 文生 柏木 公一	<p>人材の育成と活用、業務管理、情報システムと管理、看護の質保証など、看護管理に関する事項について、文献検討やディスカッションを通して理解を深める。</p> <p>特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰで学んだ知識・理論・概念を経験知と統合し、現象のとらえ方や分析方法を検討する。</p>
	看護情報・管理学 演習Ⅱ 〈感染〉	西岡 みどり 森 那美子	<p>医療関連感染サーベイランスやエビデンスに基づいた感染対策、病院管理等について、講義、文献検討、ディスカッション等を通して探求する。</p> <p>1. 感染管理に関する疫学的手法や実験的手法などを習得し、エビデンスに基づいた感染対策を探求する。</p> <p>(1) 医療関連感染サーベイランス・アウトブレイク調査手法</p> <p>(2) 洗浄・消毒・滅菌・無菌操作の基礎および無菌法の臨床における応用</p> <p>2. 医療関連感染サーベイランスに関する諸問題を検討し、適切で効率的な手法を探求する。</p> <p>3. 市中および医療関連感染管理に関する看護活動について探求する。</p> <p>(1) 病院管理：組織構築と運営</p> <p>(2) 感染管理教育</p> <p>(3) 職業感染管理：医療従事者の感染管理</p>	

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
	看護情報・管理学			(4) ファシリティマネジメント (5) コンサルテーション
		看護情報・管理学 特別研究	小澤 三枝子 竹内 文生 西岡 みどり 柏木 公一 森 那美子	看護情報・管理に関する課題を研究テーマとして、研究論文を作成する。 具体的には、人材の育成と活用、業務管理、情報システムと管理、安全管理（感染防止、事故防止等）を中心に、看護の質保証プログラムの開発や、効果的・効率的ケアのあり方などのテーマについて研究を行い、論文を作成する。さらに研究成果の効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	成 人 看 護	成人看護学 特論Ⅰ	石井 智香子 飯野 京子 外崎 明子	がんおよび循環器病をはじめとした疾患をもつ成人期の患者を対象に、セルフケア能力を高め、かつ QOL 向上を図る効果的な看護に関する研究課題について検討する。 成人期にある患者の行動・反応を理解するための概念・理論を基盤に、 1. がん患者の看護アセスメント、および看護介入法の基礎的な課題を検討する。 2. 循環器病とそのリスクファクター管理を必要とする患者に焦点をあて、看護アセスメントおよび看護介入法の基礎的な課題を検討する。
		成人看護学 特論Ⅱ 〈がん看護 A〉	飯野 京子 小山 友里江	成人看護学特論Ⅰの履修を前提に、成人期にある集学的治療を受けるがん患者および緩和ケアを受けるがん患者に対して、適切な看護実践を行うためにがん患者を取り巻く制度、保健医療福祉について講義や文献検討を通して学ぶ。更に、がん患者の看護ニーズを探求し、対象のセルフケア能力を維持・向上し、QOL 向上を図るための看護援助について、講義や文献検討により研究課題を探究する。 1. がん患者と取り巻く制度、保健医療福祉について探求する。 2. がん患者に対する効果的なケアシステムのあり方について考察する。 3. がん患者に対する効果的な看護介入方法とその評価法について探求する。 4. がんの集学的治療を受ける患者、緩和ケアを受ける患者に対する効果的な介入方法について探求する。
		成人看護学 特論Ⅱ 〈がん看護 B〉	外崎 明子	成人看護学特論Ⅰの履修を前提に、成人期にあるがん治療中の患者、がんサバイバー、またはがん予防行動を必要とする人々とその家族の健康回復の促進とセルフケア能力の向上を目的とした看護援助に関する概念・理論を探究する。さらにがん看護の領域での新たな

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	成 人 看 護 学			<p>な看護実践方法を追求するために、講義や文献検討により研究課題を探究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん看護領域における看護援助を理解し、論述していくための概念・理論について、文献検討を通して探究する。</li> <li>2. がん看護領域における効果的な看護支援方法について、先行研究を文献検討し、その評価方法について探究する。</li> <li>3. 先行研究の文献検討を通してがん看護領域における課題を検討し、新たな看護実践方法の開発に寄与するような自らの研究課題について検討する。</li> </ol>
		成人看護学 特論Ⅱ 〈循環器病・成人 先端看護〉	石井 智香子 遠藤 晶子	<p>成人看護学特論Ⅰの履修を前提に、成人が罹患しやすい慢性病の一つである循環器病（心血管・脳血管疾患）、およびそのリスクファクター管理を中心に、成人期に生じるあらゆる健康障害を有する患者の急性期（周手術期を含む）から社会復帰までの過程の看護を探究する。特に、患者の健康回復の促進と、セルフケア能力の向上、QOLの向上を図るため、講義や文献検討により、根拠に基づく先端の看護実践について追求し、研究課題を探究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期に生じるあらゆる健康障害、特に循環器病の予防、急性期から社会復帰までのリハビリテーション期、および終末期における効果的な介入方法とその評価法</li> <li>2. 慢性病や急性の健康障害を持つ成人患者および家族の反応、療養行動、生活の特性を理解するための理論・概念の有用性と課題</li> <li>3. 関心領域における新たな看護実践方法の研究課題の検討</li> </ol>
		成人看護学 演習Ⅰ 〈がん看護 A〉	飯野 京子 小山 友里江	<p>成人看護学特論Ⅰ・Ⅱの履修を前提に、がんにおける集学的治療および緩和ケアに関する根拠に基づいた最新の知見を探究する。更にごん患者のセルフケア能力を維持・向上し、QOL向上を図るための看護援助について、先行研究の文献的考察を行い、研究課題を追求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最新の知見を踏まえたがん医療について探究し、がん患者の抱える課題を多面的に考察する。</li> <li>2. がん患者の抱える多面的な課題を自らの実践を通して考察する。</li> <li>3. がん看護の基盤となる理論を理解し、専門性の高い看護実践に役立つ実践モデルを探究する。</li> </ol>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	成 人 看 護 学			4. がん看護に関する先行研究を検索し、自らの研究課題に対して考察を行う。
		成人看護学 演習Ⅰ 〈がん看護B〉	外崎 明子	成人看護学特論Ⅰ・Ⅱの履修を前提に、成人期にあるがん治療中の患者、がんサバイバー、またはがん予防行動を必要とする人々とその家族の健康回復の促進とセルフケア能力の向上を目的とした看護援助を効果的に行う方法について先行研究の文献考察を行い、アセスメント方法、評価方法について習得する。 1. 成人期にあるがん患者やサバイバーやその家族への看護援助方法に関する先行研究論文について論文クリティークを行う。 2. 成人期にあるがん患者やサバイバーやその家族への看護援助方法に関する先行研究論文を検索し、健康問題のアセスメント方法や看護援助の評価方法について考察する。 3. 特論Ⅰ・Ⅱで学習した理論や概念、これまでの臨床実践経験を通じた経験知を統合し、研究課題の概念構造を考察する。 4. 自らの研究課題を探究する中で、評価方法（測定方法、分析方法など）を検討し、習得する。
		成人看護学 演習Ⅰ 〈循環器病・成人 先端看護〉	石井 智香子 遠藤 晶子	成人看護学特論Ⅰ・Ⅱの履修を前提に、循環器病をはじめとした疾患をもつ成人期にある患者のセルフケア能力ならびにQOL向上に関する先行研究の文献クリティークを行い、研究課題を追求する。 1. 成人患者、特に循環器病とそのリスクファクター管理が必要な患者の看護ケアに関する先行研究論文のクリティーク 2. 慢性病の急性増悪や手術療法を受けるなど、急性の健康障害を有する患者の回復と適応の過程に必要な看護ケアに関する先行研究論文のクリティーク 3. 慢性病者の生活の質をアセスメントするためのQOLの概念とその測定法、および心理・社会的な側面の各種アセスメントツールの有用性と課題 4. 慢性病者の医療制度、福祉制度、および活用可能な社会資源の現状と課題 5. 先端医療における看護の役割と課題（意思決定支援、倫理・人権擁護・代弁、職種間・施設間調整などを含む）
		成人看護学 演習Ⅱ 〈がん看護A〉	飯野 京子 小山 友里江	成人看護学特論Ⅰ・Ⅱの履修を前提に、成人期にある集学的治療を受けるがん患者および緩和ケアを受けるがん患者に対する効果的な看護ケアを追求する演習を政策医療の場で行う。研究課題と研究方法を探究し、

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	成 人 看 護 学			<p>研究を進める手法を理解する。</p> <p>1. 成人期にある集学的治療を受けるがん患者および緩和ケア、保健医療福祉の特徴を多面的に理解し、研究課題および看護法の開発を探究する演習を行う。</p> <p>2. 自らの研究課題についてフィールドワークや事例検討を行い、研究課題追求の過程を理解する。</p>
		成人看護学 演習Ⅱ 〈がん看護B〉	外崎 明子	<p>成人期にあるがん治療中の患者、がんサバイバー、またはがん予防行動を必要とする人々とその家族への看護援助を効果的に行うために、健康回復の促進とセルフケア能力を目指す看護ニーズアセスメント、および効果的な看護ケアを追究する演習を政策医療の場で行う。これをもとに研究に必要とされるデータ収集・分析方法を習得する。</p> <p>1. 政策医療の場において成人期にあるがん患者やその家族の健康問題の特徴、医療・福祉体制、治療環境を理解し、研究課題および看護法の開発を探究する演習を行う。</p> <p>2. がん医療の場における専門的な看護職の役割（意思決定支援、倫理調整、職種間・施設間の調整、他職種への指導や看護継続教育）や今後の課題について、演習を通じて考察する。</p> <p>3. 演習Ⅰで探求した自らの研究課題に関する評価方法を活用し、患者およびその家族の健康問題を評価する方法を習得する。</p>
		成人看護学 演習Ⅱ 〈循環器病・成人 先端看護〉	石井 智香子 遠藤 晶子	<p>成人看護学特論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰの履修を前提に、循環器病をはじめとした疾患をもつ成人期にある患者のセルフケア能力とQOL向上を目指す看護ニーズアセスメント、および効果的な看護ケアを追究する演習を政策医療の場で行う。これをもとに、研究に必要とされる基礎的なデータ収集・分析法を修得する。</p> <p>1. 政策医療の場において、循環器病をはじめとする疾患をもつ成人期にある患者の健康問題の把握、および医療・福祉体制、治療環境、看護介入の現状と課題を理解し、文献検討を通して研究課題および看護法の開発を探究する。</p> <p>2. 研究課題および看護法の開発に必要な調査法、面接法、質問紙測定法などを模擬的に経験し、データ収集・分析における自己の課題とその解決法を明確にする。</p>
		成人看護学 特別研究	石井 智香子 飯野 京子 外崎 明子	<p>政策医療におけるがん患者、循環器病患者をはじめとした成人期にある患者の看護ケアに関する課題を研究テーマとして設定し、先行研究の検索と考察によっ</p>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域				て研究計画を作成する。この研究計画に基づきデータを収集・分析し、論文を作成する。さらに研究成果の効果的なプレゼンテーション法を学ぶ。
	精 神	精神看護学 特論Ⅰ	鉅鹿 健吉	<p>精神保健の基礎知識について理解を深める。精神の健康増進にも役立つカウンセリングの技術について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>メンタルヘルスの基礎 <ul style="list-style-type: none"> <li>不安と劣等感 ・ 怒りと攻撃性 ・ 感情の発達</li> <li>ストレス耐性 ・ トラウマ</li> </ul> </li> <li>カウンセリングを中心とした疾病予防と健康増進 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育的カウンセリング ・ ブリーフセラピー</li> <li>アートセラピー ・ その他の援助方法</li> </ul> </li> <li>事例研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>感情障害 ・ 思考障害 ・ 人格障害 ・ 生活障害</li> </ul> </li> </ol>
	看 護 学	精神看護学 特論Ⅱ	天谷 真奈美	<p>精神看護領域において理論的根拠に基づいた適切な看護実践を行うために、精神領域の保健医療福祉と政策医療に関する法制度の概況、対象の精神的健康問題や生活の特徴を査定し評価する方法について、知識や理論を学ぶ。加えて、本看護領域における理論や国内外の研究成果を活用する方法を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>精神保健医療福祉に関連する法制度、政策医療における精神保健及び精神障害者の看護の成り立ちや現況を理解する。</li> <li>国内外の精神領域のヘルスケアシステムの現状と課題について探究し、今後の精神領域のヘルスケアシステムのあり方を考察する。</li> <li>精神看護の対象者を的確に把握する理論、ならびに対象の精神的健康問題と生活の特徴をアセスメントし評価する理論や知識を習得する。</li> <li>これらの理論や研究成果を精神看護実践の発展に活用する方法を考察する。</li> </ol>
	学 領 域	精神看護学 演習Ⅰ	天谷 真奈美 鉅鹿 健吉 上野 里絵	<p>精神疾患の診断および精神領域の治療に関する最新の知識を修得する。また精神看護の実践の基盤となる看護理論モデル、治療的スキル等の適用方法について文献検討と演習を行い、自己の看護実践を評価し発展させる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主な精神疾患の診断と治療に関する最新知識、その効果と評価に関する文献資料を読解し、精神領域の健康上の問題を抱える人々の回復促進・生活支援のための方略と課題を多角的に考察する。</li> <li>心理学的治療法に関する文献検討・スキルアップ演習を行い、効果的な看護実践に向けた臨床応用を</li> </ol>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容	
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	精 神			<p>検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングの実際、</li> <li>・ソーシャルスキルとアサーショントレーニング</li> <li>・構成的グループエンカウンターの実際</li> <li>・サイコセラピーの事例研究</li> </ul> <p>3. 精神看護の実践の基盤となる看護理論を理解し、専門性の高い看護実践に役立つ実践モデルを探究する。</p> <p>4. 行動と心理現象の測定評価の知識と基本的な手技を修得し、看護実践を評価し発展させる方法論を探究する。</p>	
		精神看護学 演習Ⅱ	天谷 真奈美 上野 里絵	<p>精神看護領域における諸課題（精神的健康の維持・増進ならびに回復にむけた対象理解と看護、支援ネットワークの構築、家族支援等）と看護の果たす役割を探究する演習を文献講読、フィールドワーク、事例検討等を通じて行う。それらにより、自らの研究課題を焦点化し、研究を進める手法を理解する。</p> <p>1. 精神看護領域の研究動向と研究課題を概観し、事象と研究すべき課題について考察する。</p> <p>2. 関心の高い研究課題について先行研究を批判的に考察し、研究の理論的枠組み、研究手法、論文作成過程、倫理的配慮について知識を深める。</p> <p>3. 自らの研究課題についてフィールドワークや事例検討等を行い、実践的観点からの有用性を考察し、課題追求の過程を理解する。</p>	
	看 護 学	学	精神看護学 特別研究	天谷 真奈美 鉅鹿 健吉	<p>政策医療における精神保健及び精神障害者の看護に関する課題を研究テーマとして設定し、十分な文献検討をベースに研究計画書を作成する。研究計画書に基づいてデータを収集・分析、考察し、論文を作成する。さらに研究成果の効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。</p>
			成育看護学 特論Ⅰ	伊藤 龍子 佐々木 和子 遠藤 数江	<p>小児保健及び母子保健をめぐる状況を踏まえ、母性・父性・子どもの健全な育成とそれを支える家族、社会構造・環境と看護の関連について探究し、成育看護学の役割と課題について検討する。</p> <p>1. 小児保健及び母子保健の発展過程について論じる。</p> <p>2. 子どもと母性の健全育成の促進要因や阻害要因、それを支える家族や社会構造についてその関連を考察する。</p> <p>3. 父性の健全な育成とそれを支える家族や社会構造についてその関連を考察する。</p>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先 駆 的 臨 床 看 護 学 領 域	成 育 看 護 学	成育看護学 特論Ⅱ	伊藤 龍子 佐々木 和子	<p>成育看護学特論Ⅰを踏まえて、成育看護領域の理論的根拠に基いた看護を実践するために、母性および周産期医療と小児医療を融合的に広く捉え、成育看護に関わる理論や文献を活用しながら政策医療における成育看護学の役割と課題について考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成育医療において、医療を必要とする子どもとその家族が直面している現状と課題について国内外の文献を検討し、今後の成育医療のあり方および成育看護の専門性について探求する。</li> <li>2. 成育医療において、周産期領域のハイリスク状態にある父性を含む対象の看護方法およびQOL向上を目指した、成育看護の役割と課題について文献を通して検討する。</li> <li>3. 小児、母性および周産期領域における国内外の先行研究の文献検討を通して、効果的な成育看護の実践方法とその評価方法について探求する。</li> <li>4. 先行研究および文献検討の動向を基に、成育看護領域における役割と課題に対して、より効果的な看護実践方法を導くための研究課題について検討する。</li> </ol>
		成育看護学 演習Ⅰ	伊藤 龍子 佐々木 和子	<p>成育看護学特論Ⅰ・Ⅱの履修を前提として、成育医療の成り立ちと動向を理解し、看護理論および成長発達理論の適用方法について、子どもの成長発達の促進、健康増進、苦痛緩和と疾病管理、家族の支援の観点から国内外の成育看護領域の文献を基に考察し、子どもと家族の包括的なアセスメントと評価方法について演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健医療における最新の動向を踏まえ、子どもと家族のアセスメントと看護実践の評価について文献を講読し、関連する理論に基づいた適用方法について考察する。</li> <li>2. 母性および周産期医療を中心に、対象の母性・父性の育成やその看護実践方法について文献を講読し、関連する理論に基づいた適用方法について考察する。</li> <li>3. 小児および周産期医療、成育看護領域において、リプロダクションサイクルに応じた専門的なコーディネーションおよびコンサルテーションについて考察する。</li> </ol>
		成育看護学 演習Ⅱ	伊藤 龍子 佐々木 和子	<p>成育看護学特論Ⅰ・Ⅱ、成育看護学演習Ⅰの履修を前提として、成育医療の場におけるリプロダクションサイクルに応じた対象の理解、家族を含む包括的なニーズアセスメント、専門的な看護実践方法の開発について演習する。討議、フィールドワーク、文献講読、</p>

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先駆的臨	成育看護学			事例検討による演習を通して、自己の研究課題を明確化し、基礎的な研究方法を習得する。 1. 成育医療の場で、医療を必要とする子どもとその家族を対象に看護支援を行い、専門的なアセスメント方法および看護実践方法について探求する。 2. 成育医療の場で、周産期領域のハイリスク状態にある父性を含んだ対象に対して看護支援を行い、専門的なアセスメント方法および看護実践方法について探求する。 3. 自己の研究課題ならびに看護実践方法の開発を目的とした研究方法について習得し、成育医療における看護実践の専門性を探求する。
		成育看護学特別研究	伊藤 龍子 佐々木 和子	医療を必要とする子どもとその家族が抱える課題や生殖看護など、政策医療における成育看護分野の課題をテーマとして、研究計画、データ収集、分析方法、研究論文の作成、および研究の成果を効果的にプレゼンテーションする方法を学ぶ。
床看護学領域	長寿看護学	長寿看護学特論Ⅰ	佐藤 鈴子 綿貫 成明 濱本 洋子 竹村 玲子 林 稚佳子 俵 麻紀	豊かで活力に満ちた高齢社会を目指して、高齢者の自立促進および自立支援に関する長寿看護学の役割と課題について、高齢者を支える社会構造・環境、生活習慣、老年期の疾病等から多面的に論じる。 1. 健康長寿延伸を促進する高齢者のライフスタイル、栄養、運動、薬物代謝等について論じ、長寿看護学の課題を検討する。 2. 要介護状態の予防および要介護高齢者のQOL維持・向上に向けた長寿看護学の役割と課題を検討する。
		長寿看護学特論Ⅱ	佐藤 鈴子 林 稚佳子 綿貫 成明 俵 麻紀 宮本 美佐	長寿看護学特論Ⅰ、演習Ⅰの履修を前提に、健康長寿の延伸及び高齢者のQOL向上をめざす看護実践に役立つ研究課題を探究する。 1. 要介護状態を予防する視点から高齢者の睡眠、疲労等について論じ、長寿看護学の研究課題を探究する。 2. 認知症高齢者の理解と看護援助方法、高齢者の終末期ケアに関する現況を論じ、長寿看護学の研究課題を探究する。 3. 地域ケアシステム、在宅看護・介護に関する家族および専門職の役割について論じ、長寿看護学の研究課題を探究する。
	長寿看護学演習Ⅰ	佐藤 鈴子 綿貫 成明 濱本 洋子 林 稚佳子	長寿看護学特論Ⅰの履修を前提として、高齢者の健康寿命の延長およびQOLの向上に関する文献を検討し、長寿看護学の研究課題と方法を探究する。 1. 医療機関から退院する高齢者と家族が抱える問題	

専門領域	専門分野	授業科目	担当教員	授業科目の内容
先駆的臨床看護学領域	長寿看護学		俵 麻紀 宮本 美佐	の特徴を理解し、高齢者の自立支援に関する看護介入について検討する。 2. 在宅高齢者および施設居住高齢者の生活の質（QOL）維持向上に関する文献を探索し、長寿看護学の研究課題と方法を探究する。
		長寿看護学演習Ⅱ	佐藤 鈴子 綿貫 成明 林 稚佳子 俵 麻紀 宮本 美佐	長寿看護学特論Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅰの履修を前提に健康長寿の延伸、要介護高齢者のQOL向上に向けた看護研究に関する文献講読を行い、長寿看護学の研究課題と研究方法を探究する。 1. 入院中の高齢者を対象とした看護研究 2. 在宅看護、在宅介護に関する看護研究 3. 高齢者の健康維持・増進に関する看護研究
		長寿看護学特別研究	佐藤 鈴子 綿貫 成明 濱本 洋子 林 稚佳子 俵 麻紀	長寿看護学分野の特別研究論文を作成するため、課題の抽出、研究計画、実施、論文作成を一貫して学習する。さらに研究成果の効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。

## ■案内図 国立看護大学校（東京都清瀬市梅園1-2-1）

### 【西武池袋線「清瀬駅」までの所要時間】

●池袋からのアクセス

西武池袋線「池袋駅」から約30分

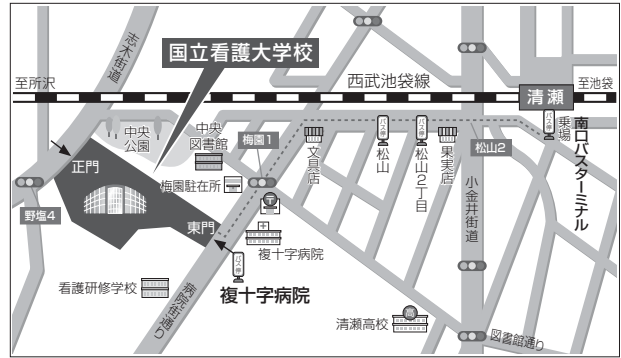
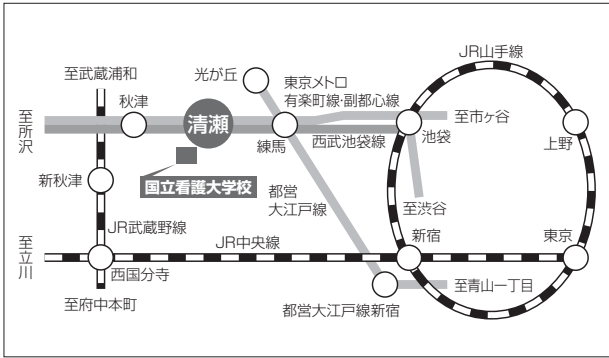
●新宿からのアクセス

JR山手線「新宿駅」から「池袋駅」乗り換え約45分  
都営大江戸線「新宿駅」から、「練馬駅」乗り換え約50分

●西武池袋線「清瀬駅」南口から徒歩15分

●西武池袋線「清瀬駅」南口②乗場より西武バスにて5分  
「複十字病院」で下車。

西武バスは、「久米川駅行」、「下里団地行」、  
「花小金井駅行」または「所沢駅東口行」があります。



### 配置図

